
運命の人 3

慶太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

運命の人3

【Nコード】

N7799D

【作者名】

慶太

【あらすじ】

ある男の恋愛話の最後です見た感想は個人2で考えてください。

（前書き）

保健室の先生との関係は如何に？

体育館裏で先生は待つていた

やってきた俺を見た瞬間少しほっとした顔をした

『来てもらえないと思った・・・』「話って？」

俺はこの人の顔を見ていたくない早く用件だけ言って欲しい

『あの時は御免ね・・・』先生はそれだけ言って俯いた

『あの後、彼にも2また掛けたてた事が原因で振られちゃった当たり前よね？』

「何が言いたいんですか？」彼女の寂しげな笑みを見て言った次に彼女の口から『もう一度』『もうありません！』『これ以上お互いに傷付くのは嫌だ俺は背中越しの先生の顔を見ることが出来なかった』

そのまま体育館裏を後にした保健室のドアの前で女友達が待つていた『吐きたい時は吐け！』彼女は俺を見るなりそう言った

少し気が緩んだ顔で彼女を見て「有難う」と言った

それから時は流れ俺は大学2年の年になった

そんな中、高校の文化祭の葉書が届いた

久しぶりに行ってみると其処には何も変わらない学校があったそして、保健室の先生・・・

何人もの女を抱いても心の隙間が埋まらなかった

きつと彼女の事を今も求めている『よ 久しぶり』

あの時の女友達「久しぶり変わってないなー」

『えーこれでも3キロ落ちたよー』そいつと話していても目で彼女を追う・・・女友達はそれを察して『行ってきたよ』

と言った俺は少しの勇気を出して先生に近づいた

先生は一瞬驚いた顔をして笑顔で『元気？』と問いかけたまた、此処から本当の恋が始まる

終わり

（後書き）

最後はハッピーでもバットでも御想像にお任せします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7799d/>

運命の人 3

2010年11月4日01時56分発行